

令和2年度

事業計画書



日本赤十字社 長期ビジョン

目 指 す 姿

国内外における人道支援活動の“要”となり、
わが国の地域医療・血液事業の中核を担う赤十字

長 期 戰 略

事 業 戰 略

災害や紛争時における支援の充実とレジリエンスの強化
超少子高齢社会における地域の健康・安全な生活の追求
多様化が進む社会における人道の輪の拡大

運動基盤強化戦略

会員の赤十字運動への参画促進
奉仕団等ボランティア主体の活動の拡充
国際赤十字との更なる協働

岡山県支部 令和2年度 重点項目

災害救護体制の整備

- 災害時通信確保のための無線設備強化
- 日赤災害医療コーディネートチームの体制強化
- 赤十字組織における広域支援体制の強化
- 災害支援ボランティアの育成



防災・減災の知識・技術の普及促進

- 赤十字防災セミナーの推進
- 指導者（ボランティア）の確保・育成
- 青少年赤十字における防災教育の充実強化



地域包括ケアの推進

- 行政や社会福祉協議会等との連携強化
- 岡山赤十字病院との連携強化
- 赤十字奉仕団との連携強化
- 救急法等講習の普及
- 指導員（健康生活支援講習）の増強



救護活動

救護活動は赤十字の最も重要な使命の一つです。災害発生直後の医療救護をはじめとする緊急対応はもちろんのこと、避難所生活環境の整備やこころのケア、復旧・復興から防災・減災まで活動を強化していきます。

また、防災教育事業「赤十字防災セミナー」の指導者の育成を加速し、地域コミュニティにおける防災意識の向上を図り、災害による被害の軽減・抑止に貢献します。

○救護班の編成

災害時、直ちに被災地に出動し被災者の救護活動が行えるよう、救護班9個班（岡山赤十字病院8個班、玉野分院1個班）54名を編成します。



○救護員の訓練・研修

近年多発する災害に備え、迅速に対応するため、救護員に対する各種訓練・研修を開催し救護技術・知識の向上に努めます。

また、被災者・救援者に対する心理社会的支援を行うための「災害時のこころのケア」についても研修をすすめます。

○日赤災害医療コーディネートチームの体制強化

効率的、効果的な救護班の運用のため、災害医療における総合調整を担う日赤災害医療コーディネートチームの体制を強化します。

○資器材の整備

大規模災害時における通信確保のための無線設備の更新を行います。

○救援物資等の備蓄と交付

毛布・緊急セット等の救援物資を備蓄し、災害時には被災者に交付します。

○義援金の受付

○臨時救護の実施

不特定多数の人々が集う公共的なイベントや大規模なスポーツ大会等において、参加者等の安全を図るため、医師、看護師、主事等で編成された救護班やボランティアを派遣します。

○防災教育事業「赤十字防災セミナー」の開催

災害からいのちを守るため、地域コミュニティにおける「自助」、「共助」の力を高めることを目的に、災害図上訓練（DIG）や応急手当等のプログラムの指導・運営を行う指導者を町内会・自治会等へ派遣します。



提供可能なプログラム例

災害図上訓練（DIG）	住民が居住地域の防災上の脆弱性や強みを地図上で確認し、地図を囲んでの意見交換を通じて防災意識を高める。
災害エスノグラフィ	過去の大規模災害の被災者の経験談を再編集した読み物を通じて過去の災害を追体験し、被災の具体的なイメージを理解する。
応急手当	身近にあるものを用いた応急手当や一次救命処置を学ぶ。
災害への備え	災害からいのちを守り身の安全を確保するため、平時から準備すべきことを理解する。

2

国際活動

赤十字は192の国や地域に広がる世界的ネットワークを活かし、人々の苦痛を軽減し、予防するためのさまざまな国際活動を行っています。

● 東ティモール赤十字社救急法普及支援事業

地域の人々が救急法を正しく理解し実践するため、講習用資器材整備等のための財政支援や、技術指導のための救急法指導員の派遣を行います。

● インドネシア・コミュニティ防災強化事業

地域住民の災害や健康問題への対応能力向上のため、財政面で支援します。

● アジア・大洋州給水・衛生災害対応キット支援

被災時において安全な飲料水の入手や清潔な仮設トイレを使用するための資器材の整備を財政面で支援します。

● 海外救援金の受付

● 「NHK 海外たすけあい」キャンペーンの実施



3

医療事業

日本赤十字社では、県内に岡山赤十字病院、岡山赤十字病院玉野分院、岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホームを設置運営し、各施設で特色ある医療事業を展開しています。

● 岡山赤十字病院

岡山県より基幹災害拠点病院に指定されており、被災地への救護班、DMAT（災害派遣医療チーム）の派遣、傷病者の受け入れを行うため、日頃から訓練や研修を実施しています。

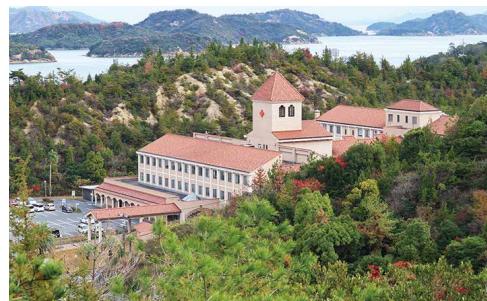
また、平時においては救命救急センターを中心とした24時間体制での救急医療を行うとともに、地域がん診療連携拠点病院として、手術・化学療法・放射線療法による治療と、緩和ケアでの苦痛を和らげる治療の体制を整えサポートしていきます。

これからも地域の皆さまにとっての中心的役割を担う母なる病院「マザーホスピタル」を目指し、地域の医療機関や介護施設等との連携をさらに深め、急性期病院としての病床機能維持及び地域医療の推進に努めます。



●岡山赤十字病院玉野分院

岡山赤十字病院や地域の医療機関と連携し、内科系の回復期や慢性期を中心に、在宅復帰を目指した医療を提供します。また、昨年より順次開設した循環器内科、整形外科、糖尿病内科についても、引き続き診療を行います。



●岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム

介護を要する高齢者等の心身の自立を支援し、包括的ケアサービスを提供する役割を担い、在宅復帰を目指します。また、ショートステイや通所リハビリテーションを提供します。

居宅介護支援事業所では、利用者に合った最適な介護保険サービスをマネジメントします。



●「赤十字健康講座」等の開催

県内の赤十字施設が連携し、医師や看護師等が講師となり「赤十字健康講座」を開催します。

また、地域からの要望に応じて医師等を派遣する「健康講演」により、県民の皆さまの健康増進を図ります。

近年、子どものアレルギー疾患は増加しており、学校給食でのアレルギー事故など、学校現場におけるアレルギー・アナフィラキシーへの対処が課題となっています。岡山県支部は、岡山赤十字病院や岡山県教育委員会と協力し、教職員を対象とした研修を開催します。

4

看護師養成事業

岡山赤十字看護専門学校では、人道を基調とし、豊かな人間性を育み、保健・医療・福祉の分野をはじめ、災害救護の現場で活躍できる基礎的能力を持った看護実践者を育成しています。

1学年定員40名で、恵まれた実習環境のなか、個性を尊重した教育を行っています。

看護実践力、社会人基礎力の高い学生の育成を目指し、看護倫理教育や看護技術教育、医療安全教育の充実、赤十字活動やボランティア活動への参加支援など、学生が自己の経験や看護実践をリフレクション（省察）し主体的に学べるよう支援します。



岡山県赤十字血液センターでは、病気やけがなどで輸血を必要としている方のため、県民の皆さんに献血をお願いするとともに、輸血用血液製剤を24時間体制で医療機関に供給しています。

●献血者の確保対策

免疫グロブリンの需要の増大に対応して、前年度計画比3,467人増の81,678人の献血を目指し、献血ルーム「うらら」や「ももたろう」でさまざまなキャンペーンを実施するほか、「高校出前講座」による献血の啓発や、子どもたちが献血を模擬体験する「キッズ献血」、出産される方のご家族への「ファミリー献血」の推進など、広く献血への理解を求める、将来的な献血者の確保に努めます。

さらに、献血協力団体等との連携を強化するとともに、Webサイトとしてリニューアルした「複数回献血クラブ（ラブラッド）」への登録依頼を積極的に推進します。



●医療情報活動の充実

岡山県内の医療機関と供給懇談会等を開催して情報共有や連携を図ります。

また、医療機関で実際に輸血に携わる臨床検査技師、看護師等を対象とした輸血検査や血液製剤の取り扱いに関する座学や実技の研修会を開催します。



●骨髓ドナー登録の推進

献血会場におけるポスターの掲示など、骨髓バンクを周知し、県、市町村、日本骨髓バンク及びボランティアなど関係団体等と協力して、骨髓ドナーの登録を推進します。

●地域に開かれた血液センターの展開

地域に根差した血液センターとしての役割を果たすため、研修室、ボランティア室等の活用を促進します。特に、血液センターと献血ルーム「ももたろう」のボランティアームを広く地域に開放し、献血の啓発を推進するとともに、災害時には地域の方の一時避難場所に利用していただくなど、地域福祉に貢献します。

6

救急法等の講習

地域住民のいのちと健康・安全を守るために、救急法・水上安全法・雪上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習の5つの講習を行っています。

日常生活に役立つ知識や技術を広く一般に普及するため講習を開催するとともに、地域や各種団体等からの依頼により指導員の派遣も行います。

また今年度は、健康生活支援講習指導員を養成し講習普及の充実を図ります。



● 健康生活支援講習を柱にした地域包括ケアの推進

少子高齢社会が進むなか、自分でできることは自分で「自助」の意識の醸成と、地域の高齢者は地域コミュニティで支え合う「互助」を実践する地域づくりが課題となっています。高齢者が可能な限り住み慣れた地域や自宅で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域ぐるみで支え合うことを「地域包括ケア」と呼びます。岡山県支部では、健康生活支援講習等の講習をはじめ赤十字が保有するリソースを活用し、赤十字内外の連携を深め、地域包括ケアを推進していきます。

● AED（自動体外式除細動器）貸出

県内で開催されるイベント等に対し AED の貸出を行います。

7

赤十字ボランティア

赤十字の活動は、多くのボランティアによって支えられています。

赤十字活動の担い手でもある赤十字ボランティアの強化のため、研修などを通じてより一層の活動の推進を図ります。

● 防災ボランティアの体制整備

自然災害の頻発化・広域化・甚大化に伴い、災害時に被災者に寄り添い活動する防災ボランティアの重要性は高まっています。

長期にわたる幅広いニーズに対応できるよう、社会福祉協議会の設置する「災害ボランティアセンター」の運営支援や「災害支援ネットワークおかやま」との連携構築を通じて他

団体と協働し、多様なボランティア活動が展開できるよう体制の整備に努めます。



●赤十字奉仕団の育成・活動推進

各地域に根差した活動や、それぞれの奉仕団が持つ専門的知識・技術を活かした活動が展開できるよう、リーダーや新たな団員等を対象とした研修を実施するとともに、奉仕団の主体的なボランティア活動を支援します。

8

青少年赤十字 (JRC)

青少年赤十字 (JRC) は、将来を担う児童・生徒に「命の大切さと人間の尊厳」を伝えるために、教育現場の先生方と赤十字が協力して創り育ててきたものです。

「気づき・考え・実行する」という態度目標に基づき、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の三つを実践目標として、学校教育のなかで活動を展開しています。教育委員会との連携を深め、指導者の養成を図るとともに加盟校の増強に努めます。

また、現在の教育現場のニーズに沿ったプログラムの提供や青少年赤十字防災教育教材「まもるいのち ひろめるぼうさい」や「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」により防災意識の向上を目指します。



9

広報活動

赤十字の事業内容や活動資金の使途について、より多くの方々に知っていただくことは、善意の寄付により活動を行う日本赤十字社にとって、とても大切なことです。

私たちの活動に賛同いただくためにも、また、ご寄付いただいた方への説明責任を果たすためにも積極的な広報活動に努めます。

そのためには、メディア露出の機会を増やし、自発的な情報発信に努める必要があり、より幅広い世代に向けた広報活動を展開します。

●広報紙「赤十字おかやま」の発行

●テレビ CM・ラジオ CM の放送による活動資金への協力呼びかけ

●赤十字運動月間（5月）における新聞広告の掲出

●積極的なプレスリリースによる取材依頼

●フェイスブックに加え、新たな SNS による情報発信

●大型イベントや地域イベントにおける赤十字ブースの出展

●岡山赤十字フェスティバルの開催



赤十字の活動基盤である「活動資金」は減少傾向が続いています。

さまざまな人道的活動を継続していくためには、より多くの方に赤十字の活動をご理解いただく必要があります。

会員や協力会員、寄付者として支援いただける方々の増強を目指して、赤十字の活動に触れていただく機会を増やすとともに、寄付機会の拡充に努めます。

今年度の活動資金目標額は、以下のとおりです。

(単位：千円)

令和2年度活動資金目標額		250,000
内訳	個人	215,160
	法人	34,840

●地域における活動資金募集の強化

各戸訪問等によりご協力いただいている地区・分区を通じた活動資金の減少が顕著であるため、より赤十字の活動をご理解いただくためにも、地区・分区の担当者とのさらなる連携に努め、地域イベント等での広報や活動資金の募集機会の拡充に努めます。

●新たな寄付形態の検討

活動資金の新規獲得や寄付者の利便性の向上を目的に、これまでの寄付方法にとらわれず、新たな活動資金募集形態について検討します。

●法人への協力依頼

活動資金の協力依頼にとどまらず、法人（企業・団体）とのタイアップによる事業展開を推進します。

●遺贈・相続財産による寄付の推進

「赤十字終活セミナー」を継続開催とともに、遺贈・相続財産による寄付について受け入れ体制の構築や専門家とのネットワークづくりに取り組みます。

●SDGsと連動したパートナーシップの構築

企業と赤十字のパートナーシップによりSDGs（持続可能な開発目標）と連動した事業を展開することで、それぞれの強みを活かし、持続可能な世界の実現に努めます。

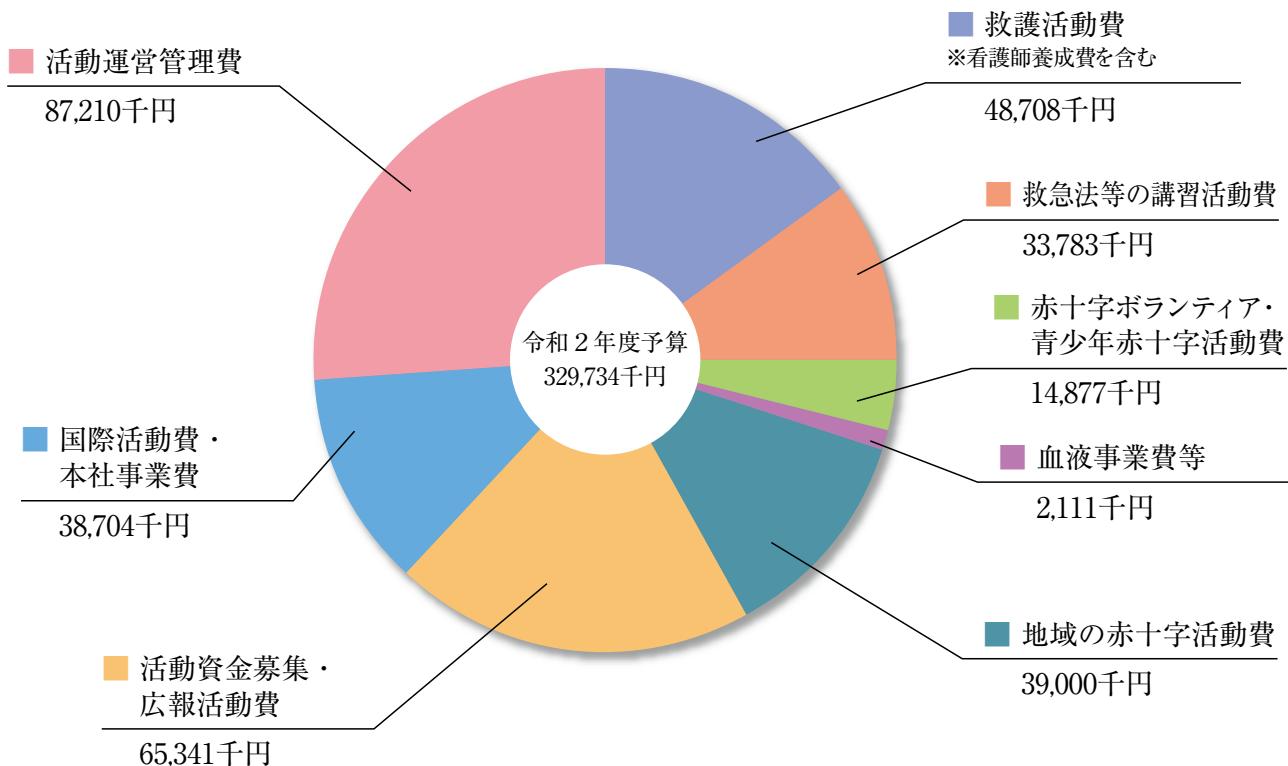


**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

令和2年度一般会計歳入歳出予算概要

(単位：千円)

科 目	予算額
活動資金収入	250,000
本社交付金収入	921
資金繰入金収入	0
各種講習教本代等雑収入	4,750
前年度繰越金	74,063
歳 入 計	329,734
救護活動費 ※看護師養成費を含む	48,708
救急法等の講習活動費	33,783
赤十字ボランティア・青少年赤十字活動費	14,877
血液事業費等	2,111
地域の赤十字活動費	39,000
活動資金募集・広報活動費	65,341
国際活動費・本社事業費	38,704
活動運営管理費	87,210
歳 出 計	329,734



 活動内容はFacebookページをご覧ください
<https://www.facebook.com/japaneseredcross.okayama>



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

岡山県支部

〒700-0823 岡山市北区丸の内二丁目7番20号 TEL 086-221-9595 FAX 086-221-9599 <http://www.okayama.jrc.or.jp>